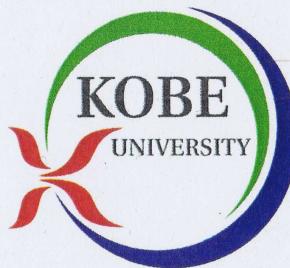


第一回 北京外国语大学・神戸大学 国際共同研究拠点 シンポジウム



主催：北京外国语大学・神戸大学
実施：北京日本学研究センター・
教育部国別と区域研究拠点
北京外国语大学北京日本学研究センター
時間：2016年6月18日（土）、19日（日）

【分科会1】

「発展モデル転換の日中比較」

6月18日（土） 司会：葛東昇

- 黄磷 「少子高齢化がもたらす課題とチャンス
—超高齢社会の日本から見える未来」(p7)
- 宋金文 「ソーシャル・ガバナンスの視点から見る日本の福祉制度改革
と地域福祉の課題」(p9)
- 周維宏 「多元福祉主義の新原則：介護ダイヤモンドの理論と課題」(p11)
- 丁紅衛 「日中経済貿易協力の転換とアップグレード——機械産業競争力と
その影響要因に関する分析」(p12)

6月19日（日） 司会：黄磷

- 王勇麗（北京日本学研究センター大学院博士課程）
「日本の高齢者の再社会化の研究」(p14)
- 張昭君（北京日本学研究センター大学院博士課程）
「京都老舗企業発展の実証研究」(p16)

少子高齢化がもたらす課題とチャンス

— 超高齢社会の日本から見える未来 —

神戸大学大学院経営学研究科 教授 黄 磐

<http://www.b.kobe-u.ac.jp/resource/staff/faculty/kou.html>

「少子高齢化」という切口に絞って、日本の研究者のみならず、同じ課題に直面しつつあるアジア諸国、とくに中国、韓国とインドネシアの研究者による制度、社会システムおよびビジネスシステムの現状分析と変革に関する国際共同研究を実施している。具体的な研究テーマとしては、少子高齢化に関する制度の比較研究、地域支援・医療・予防・保健システムなどヘルスケア・システムの研究、超高齢化社会における快活シニアと介護に関する研究および子供教育とヘルスケアのアジア市場参入の研究などがあげられる。

本報告では、やや焦点を絞って高齢化がもたらす諸問題、そして、それらの課題の解決を目指した制度およびシステムのイノベーションを創出するチャンスを明らかにし、超高齢社会である日本の現実から見える未来、さらに日本の経験をアジア諸国への社会実装を推進する可能性について探ってみたい。

実際、近未来の超高齢・人口減少社会は相当程度「所与」のものと考えざるをえない。未来に生起する事態を想像し、社会の問題解決につながるイノベーションの創出を今のうちから実行することが重要である。将来は完全には予測できないが、問題を先送りにせず、将来世代に對する我々の責務である。超高齢社会にいかに対応するかは世界共通して抱える課題である。超高齢社会の日本だけでなく、アジアの叡智を結集し、超高齢・人口減少社会に適切に対応するモデルを示すことは非常に重要である。

1 少子高齢化がもたらす問題と課題

1.1 高齢化社会、高齢社会、そして超高齢社会

高齢化率とは、65才以上の人口が全人口に占める比率のことである。高齢化社会（高齢化率が7%～14%）、高齢社会（14%～21%）、超高齢社会（21%～）。日本の高齢化率は2008年に21%に達し、日本は世界のトップランナーとして超高齢社会に突入した。

1.2 アジアと世界の高齢化率

2010年の高齢化率は、インドネシアが5.0%、インドが5.1%、中国が8.4%、韓国が11.1%に達している。ほかのアジアの新興国に比べて中国の「未富先老」という現実はより深刻な課題をもたらす。

1.3 高齢化がもたらす問題と課題

超高齢社会に突入した日本の現実を見つめることで、高齢化がもたらすさまざまな問題と課題が見えてくる。まず、人口問題である。

- 1) 逆ピラミッドに変化する人口構成
- 2) “拘束”される近未来
- 3) ひとり暮らし世帯や夫婦のみの世帯の増加
- 4) 消滅する自治体

つぎに超高齢化と人口減少は、政治、経済や社会保障などの多方面に影響を与える。

- 5) 高齢化は国力の低下をもたらす。
- 6) 超高齢社会では、世代間の利害対立が深刻化することが懸念される。
- 7) 高齢化の進展は貯蓄率の低下、市場規模の縮小をもたらし、経済成長にマイナスに作用